

令和4年度 佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき
＜水稻・大豆・果樹・茶＞
－病虫害防除共通資料－

X 病虫害防除共通資料

1. 薬剤抵抗性害虫及び耐性菌の防除薬剤について	459
作用機作による殺虫剤の分類	460
作用機作による殺菌剤の分類	462
病原菌ごとの薬剤耐性菌発生リスク	465
作物ごとの薬剤耐性菌発生リスク	466

(1) 薬剤抵抗性害虫及び耐性菌の防除薬剤について

果樹や茶に寄生する病虫害に対し、近年薬剤の防除効果があがりにくくなっている事例が多くみられる。これらの薬剤抵抗性害虫及び耐性菌に対しては、耕種的防除も含めた総合的な防除対策が必要であるが、薬剤による防除を行う場合には、薬剤感受性低下を防ぐために、次頁からの表を参考にして、同一系統の薬剤の連用を避ける。

作用機構による殺虫剤の分類 (IRAC 殺虫剤作用機構分類を改変) [\[目次に戻る\]](#)

2020.3月現在

IRAC コード	サブグループあるいは 代表的有効成分	有効成分	農薬名(例) (剤型省略)
1A	カーバメート系	アラニカルブ	オリオン
		ベンフラカルブ	オンコル
		NAC(カルバリル)	デナボン
		カルボスルファン	アドバンテージ、ガゼット
		BPMC(フェノブカルブ)	バッサ
		メソミル	ランネット
		オキサミル	バイデートL
		チオジカルブ	
1B	有機リン系	アセフェート	オルトラン、ジェイエース、ジェネレート、スミフェート
		カズサホス	ラグビー
		クロルピリホス	ダースバン
		CYAP(シアンホス)	サイアノックス
		ダイアジノン	ダイアジノン
		ジメトエート	ジメトエート
		MEP(フェントロチオン)	スミチオン
		ホスチアゼート	ネマトリン、ガードホープ
		イミシアホス	ネマキック
		イソキサチオン	カルホス、カルモック、ネキリエースK
		マラソン(マラチオン)	マラソン
		DMTP(メチダチオン)	スプラサイド
		PAP(フェントエート)	エルサン
		プロフェノホス	エンセダン
プロチオホス	トクチオン		
2A	環状ジエン有機塩素系		
2B	フェニルピラゾール系 (フィプロール系)	エチプロール フィプロニル	キラップ プリンス
3A	ピレスロイド系 ピレトリン系	アクリナトリン	アーデント
		ビフェントリン	テルスター
		シクロプロトリン	シクロサル
		シフルトリン	バイスロイド
		シハロトリン	サイハロン
		シペルメトリン	アグロスリン、ゲットアウト
		エトフェンプロックス	トレボン
		フェンプロバトリン	ロディー
		フェンバレレート	ハクサップ、パーマチオン、ベジホン等の成分
		フルシトリネート	ペイオフ
		フルバリネート(ε-フルバリネート)	マブリック
		ベルメトリン	アディオン
		シラフルオフェン	MRジョーカー
		テフルトリン	フォース
		トラロメトリン	スカウト
		ピレトリン	バイベニカVスプレー
3B	DDT メトキシクロル		
4A	ネオニコチノイド系	アセタミプリド	モスピラン
		クロチアニジン	ダントツ、ワンリード
		ジノテフラン	スタークル、アルバリン
		イミダクロプリド	アドマイヤー
		ニテンピラム	ベストガード
		チアクロプリド	バリアード
		チアメキサム	アクタラ、クルーザー
4B	ニコチン		
4C	スルホキシイミン系	スルホキサフロル	エクシード、トランスフォーム
4D	プテノライド系	フルピラジフロン	シバント
4E	メソイオン系	トリフルメゾピリム	ゼクサロン
5	スピノシン系	スピネトラム	ディアナ
		スピノサド	スピノエース
6	アベルメクチン系 ミルベマイシン系	アバメクチン	アグリメック
		エマメクチン安息香酸塩	アフーム
		レピメクチン	アニキ
		ミルベメクチン	ミルベノック、コロマイト

IRAC コード	サブグループあるいは 代表的有効成分	有効成分	農薬名(例) (剤型省略)
7A	幼若ホルモン類縁体		
7B	フェノキシカルブ		
7C	ピリプロキシフェン	ピリプロキシフェン	ラノー、プルート
8A	ハロゲン化アルキル系		
8B	クロールピクリン	クロールピクリン	クロールピクリン、ドクロロール、ドジョウピクリン、ク ロピクフロー
8C	フルオライド系		
8D	ホウ酸塩		
8E	吐酒石		
8F	メチルイソチオシアネート ジェネレーター	ダゾメット カーバム	バスアミド、ガスタード NCS、キルパー
9B	ピリジン アゾメチン誘導体	ピメロジン ピリフルキナゾン	チェス コルト
9D	ピロペン系		
10A	クロフェンテジン ヘキシチアゾクス	クロフェンテジン ヘキシチアゾクス	カーラ ニッソラン
10B	エトキサゾール	エトキサゾール	バロック
11A	<i>Bacillus thuringiensis</i> と生 産殺虫タンパク質	<i>B.t. subsp. aizawai</i> <i>B.t. subsp. kurstaki</i>	アイザワイ系統: フローバック、ゼンターリ、クオー ク、サブリナ、エコマスター、ジャックポット、チュー レックス クルスターキ系統: トアローCT、チューリサイド、 チューンアップ、エスマルク、デルフィン、ファイブ スター、バイオマックス アイザワイ+クルスターキ系統: バシレックス
11B	<i>Bacillus sphaericus</i>		
12A	ジアフェンチウロン	ジアフェンチウロン	ガンバ
12B	有機スズ系殺ダニ剤		
12C	プロバルギット	BPPS(プロバルギット)	オマイト
12D	テトラジホン	テトラジホン	テデオ
13	ピロール系 ジニトロフェノール系 スルフルアミド	クロールフェナピル	コテツ
14	ネライストキシン類縁体	ベンスルタップ カルタップ チオシクラム	ルーバン バダン エビセクト、リーフガード、スクミハンター
15	ベンゾイル尿素系	クロールフルアズロン ジフルベンズロン フルフェノクスロン ルフェヌロン ノバルロン テフルベンズロン	アタブロン デミリン カスケード マッチ カウンター ノーモルト
16	ブプロフェジン	ブプロフェジン	アブロード
17	シロマジン	シロマジン	トリガード
18	ジアシルヒドラジン系	クロマフェノジド メキシフェノジド テプフェノジド	マトリック ファルコン、ランナー ロムダン
19	アミトラズ	アミトラズ	ダニカット
20A	ヒドラメチルノン		
20B	アセキノシル	アセキノシル	カネマイト
20C	フルアクリピリム	フルアクリピリム	タイタロン
20D	ピフェナゼート	ピフェナゼート	マイトコーネ
21A	METI剤	フェンピロキシメート ピリミジフェン ピリダベン テプフェンピラド トルフェンピラド	ダニトロン マイトクリーン サンマイト ピラニカ ハチハチ
21B	ロテノン		
22A	オキサジアジン系	インドキサカルブ	トルネードエース
22B	セミカルバゾン系	メタフルミゾン	アクセル
23	テトロン酸及びテトラミン酸 誘導体	スピロジクロフェン スピロメシフェン スピロテトラマト	ダニエモン ダニゲッター、クリアザール モベント

IRAC コード	サブグループあるいは 代表的有効成分	有効成分	農薬名(例) (剤型省略)
24A	ホスフィン系		
24B	シアニド		
25A	β -ケトニトリル誘導体	シエノピラフェン シフルメトフェン	スターマイト ダニサラバ
25B	カルボキサニリド系	ビフルブミド	ダニコング
28	ジアミド系	クロラントラニプロール シアントラニプロール シクラニプロール フルベンジアミド テトラニプロール	ブレバゾン、サムコル、フェルテラ ベネビア、ベリマーク、エクシレル、パディート、プリ ロツソ テツパン フェニックス
29	フロニカミド	フロニカミド	ウララ
30	メタジアミド系 イソキサゾリン系	プロフラニリド フルキサメタミド	グレーシア
32	GS-オメガ/カッパHXTX- Hv1aペプチド		
34	ミトコンドリア電子伝達系複 合体III阻害剤	フロトキン	ファインセーブフロアブル
UN	アザジラクチン ベンゾキシメート プロモプロピレート キノメチオナート ジコホル ピリダリル 硫黄 石灰硫黄合剤 マンゼブ	キノキサリン系(キノメチオナート)	モレスタン ブレオ 硫黄 石灰硫黄合剤 ジマンダイセン、ペンコゼブ

作用機構による殺菌剤の分類 (FRAC コード表日本版 2021年3月を改変) [\[目次に戻る\]](#)

作用機構	グループ名	有効成分名	農薬名(例) (剤型省略)	耐性菌 発生リスク※注1	FRAC コード
核酸合成代謝	PA殺菌剤 (フェニルアミド類)	メタラキシル メタラキシルM	リドミル サブデューマックス	高	4
	芳香族ヘテロ環類	ヒドロキシイソキサゾール	タチガレン	知られていない	32
	カルボン酸類	オキソリニック酸	スターナ	中～高	31
	MBC殺菌剤 (メチルベンゾイミダゾール カーバメート)	ベノミル チオファネートメチル	ベンレート トップジンM	高	1
細胞骨格と モータータンパク 質	N-フェニルカーバメート類	ジエトフェンカルブ	スミブレンド、ゲッター、プ ライアの成分	高	10
	チアゾールカルボキサミド類	エタボキサム	エトフィン	低～中	22
	フェニルウレア類	ペンシクロン	モンセレン	知られていない	20
	ベンズアミド類	フルオピコリド	ジャストフィット、リライア ブルの成分	中	43
	アリルフェニルケトン類	ピリオフェン	プロバティ	中	50
	呼吸	ピリミジンアミン類 ピラゾールカルボキサミド類	ジフルメトリム トルフェンピラド	ピリカット ハチハチ	知られていない 知られていない
	SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	フルトラニル フラメピル メブロニル チフルザミド ペンフルフェン ボスカリド ペンチオピラド フルオピラム インピラザム イソフェタミド ピラジフルミド フルキサピロキサド インピルフルキサム	モンカット リンパー バンタック グレータム エバーゴル カンタス アフエット、フルーツセイ パー オルフィン ネクスター ケンジャ パレード セルカディス カナメ	中～高※注2	7

作用機構	グループ名	有効成分名	農薬名(例) (剤型省略)	耐性菌 発生リスク※注1	FRAC コード
呼吸	QoI殺菌剤 (Qo阻害剤)	アゾキシストロビン	アミスター	高※注3	11
		ピコキシストロビン	メジャー		
		マンデストロビン	スクレア		
		ピラクロストロビン	ナリア、シグナムの成分		
		クレソキシムメチル	ストロビー		
		トリフロキシストロビン	フリント		
		メミノストロビン	オリブライト、イモチエース		
		ファモキサドン	ホライズンの成分		
		フルオキサストロビン			
		ピリベンカルブ	ファンタジスタ		
Qii殺菌剤 (Qi阻害剤)	シアゾファミド	ランマン	中～高と推測	21	
	アミスルブロム	ライメイ、オラクル			
	フルアジナム	フロンサイド	低	29	
QoSI殺菌剤 (Qo阻害剤 スチグマテリン結 合タイプ)	アメクトラジン	ザンプロ	中～高と推測	45	
アミノ酸および蛋 白質生合成	AP殺菌剤 (アニリノピリミジン類)	シプロジニル	ユニックス	中	9
		メパニピリム	フルピカ		
	ヘキソピラノシル抗生物質	カスガマイシン	カスミン	中	24
	グルコピラノシル抗生物質	ストレプトマイシン	アグレプト、ストマイ、ヒトマ イシン、マイシン	高	25
	テトラサイクリン抗生物質	オキシテトラサイクリン	マイコシールド	高	41
シグナル伝達	PP殺菌剤 (フェニルピロール類)	フルジオキシニル	セイビアー	低～中	12
	ジカルボキシイミド類	イプロジオン	ロブラール	中～高	2
	プロシミドン	スミレックス			
脂質生合成また は輸送/細胞膜 の構造または機 能	ホスホロチオレート類	IBP(イプロベンホス)	キタジンP	低～中	6
	ジチオラン類	イソプロチオラン	フジワン		
	AH殺菌剤(芳香族炭化水素)	トルクロホスメチル	リゾレックス	低～中	14
	カーバメート類	プロパモカルブ塩酸塩	プレビクールN	低～中	28
	OSBPI オキシステロール結合 蛋白質阻害	オキサチアピプロリン	ゾーベック エニケード等	中～高	49
細胞膜のステ ロール生合成	DMI殺菌剤 (脱メチル化阻害剤) (SBI: クラス I)	トリホリン	サブロール	中	3
		フェナリモル	ルピゲン		
		オキシポコナゾールフマ ル酸塩	オーシャイン		
		ペフラゾエート	ヘルシード		
		プロクロラズ	スポルタック		
		トリフルミゾール	トリフミン		
		シプロコナゾール	センチネル		
		ジフェノコナゾール	スコア		
		フェンブコナゾール	インダー、デビュー		
		ヘキサコナゾール	アンビル		
		イミベンコナゾール	マネージ		
		イプロコナゾール	テクリード		
		メコナゾール	ワークアップ		
		ミクロブタニル	ラリー		
		プロピコナゾール	チルト		
		シメコナゾール	サンリット、モンガリット		
		テブコナゾール	シルバキュア、オンリーワ ン		
		テトラコナゾール	サルバトーレ、ホクガード		
		KRI殺菌剤 (ケト還元酵素阻害剤) (SBI: クラスⅢ)	フェンヘキサミド		
	(SBI: クラスⅣ)	ピリブチカルブ	エイゲン	知られていない	18
細胞壁生合成	ポリオキシシン類	ポリオキシシン	ポリオキシシン	中	19
	CAA殺菌剤 (カルボン酸アミド類)	ジメトモルフ	フェスティバル	低～中	40
		ベンチアバリカルブイソプ ロピル	プロボーズ、ベトファイター 等の成分		
		マンジプロバミド	レーバス		

作用機構	グループ名	有効成分名	農薬名(例) (剤型省略)	耐性菌 発生リスク※注1	FRAC コード
細胞壁のメラニン合成	MBI-R	フサライド	ラブサイド	知られていない	16.1
		ピロキロン	コロトップ		
		トリシクラゾール	ビーム		
	MBI-D	フェノキサニル	アチーブ	中	16.2
MBI-P	トルプロカルブ	サンブラス、ゴウケツ	知られていない	16.3	
宿主植物の抵抗性誘導	ベンゾチアジアゾール(BTH)	アシベンゾラルS-メチル	アクティガード	知られていない	P1
	ベンゾイソチアゾール	プロペナゾール	オリゼメート		P2
	チアジアゾールカルボキサミド	チアジニル	ブイゲット	知られていない	P3
		イソチアニル	スタウト、ルーチン		
	ホスホナート類	ホセチル	アリエッティ	低	P7
	イソチアゾール	ジクロベンチアゾクス	ブーン	知られていない	P8
作用機構不明	シアノアセトアミドオキシム	シモキサニル	カーゼート、ブリザード等の成分	低～中	27
	ベンゼンスルホンアミド類	フルスルファミド	ネビジン、ネビリュウ	知られていない	36
	フェニルアセトアミド	シフルフェナミド	パンチョ、コナケシ	中～高	U6
	チアゾリジン	フルチアニル	ガッテン	中	U13
	ピリミジノンヒドラゾン類	フェリムゾン	ブラシンの成分	知られていない	U14
	4-キノリル酢酸	テブフロキン	トライ	知られていない	U16
	テトラゾリルオキシム	ピカルブトラゾクス	ピシロック、ナエファイン	知られていない	U17
	グルコピラノシル抗生物質	バリダマイシン	バリダシン	知られていない	U18
特定されない	種々	炭酸水素カリウム 炭酸水素ナトリウム 天然物起源	カリグリーン ハーモメイト		NC
多作用点 接触活性	無機化合物(求電子剤)	銅	Zボルドー、コサイド3000等	知られていない	M1
	無機化合物(求電子剤)	硫黄	サルファー、イオウ等		M2
	ジチオカーバメート類および類縁体(求電子剤)	マンゼブ	ジマンダイセン、ベンコゼブ		M3
		マンネブ	エムダイファー		
		プロピネブ	アントラコール		
		チウラム	チウラム、チオノック、トレノックス		
	ジラム	モボクター			
	フタルイミド類(求電子剤)	キャプタン	オーソサイド		M4
	クロロニトリル類(フタロニトリル類) (作用点不明)	TPN(クロロタロニル)	ダコニール、パスポート		M5
	ビスグアニジン類 (細胞膜攪乱剤、界面活性剤)	イミノクタジン酢酸塩 イミノクタジンアルベシル酸塩	ベフラン ベルコート		M7
	キノン類(アントラキノン類) (求電子剤)	ジチアノン	デラン		M9
キノキサリン類(求電子剤)	キノキサリン系	モレストン	M10		
マレイミド(求電子剤)	フルオルイミド	ストライド	M11		
複数の作用機構を有する生物農薬:微生物農薬	微生物 (生存微生物またはその抽出物、代謝物)	バチルス・ズブチリス HB1600 HAI-0404 QST-713 D747	ボトキラー、ボトピカ アグロケア インプレッション エコショット	知られていない	BM2

注1・・・日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会「系統別耐性菌発生リスク(2018年11月5日現在)」より引用

注2・・・系統内で交差耐性がみられない場合がある。

注3・・・ピリベンカルブに対する感受性の低下幅は既存QoI剤と比較して小さい。

病原菌ごとの薬剤耐性菌発生リスク (2018年11月5日現在) [\[目次に戻る\]](#)

日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会

分類	作物・病害名	病原菌	QoI		SDHI		耐性菌 リスク
			耐性菌 発生 状況	農業 登録	耐性菌 発生 状況	農業 登録	
うどんこ病	コムギうどんこ病	<i>Blumeria (Erysiphe) graminis</i> f.sp. <i>tritici</i>	●	有		無	高い
	オオムギうどんこ病	<i>Blumeria graminis</i> f.sp. <i>hordei</i>	○	有		無	高い
	ウリ類うどんこ病	<i>Podosphaera xanthii</i> (= <i>Podosphaera fusca</i>)	●	有	●	有	高い
	イチゴうどんこ病	<i>Sphaerotheca aphanis</i> var. <i>aphanis</i>	●	有	△	有	高い
	リンゴうどんこ病	<i>Podosphaera leucotricha</i>	○	有		有	高い
	ブドウうどんこ病	<i>Erysiphe necator</i>	○	有	○	有	高い
べと病	ブドウべと病	<i>Plasmopara viticola</i>	●	有		無	高い
	キュウリべと病	<i>Pseudoperonospora cubensis</i>	●	有		無	高い
褐斑病等 <i>Corynespora</i> 属 および近縁菌	ナス黒枯病	<i>Corynespora cassiicola</i>	●	混	△		高い
	ピーマン黒枯病	<i>Corynespora cassiicola</i>	●	有	△	有	高い
	キュウリ褐斑病	<i>Corynespora cassiicola</i>	●	有	●	有	高い
	トマト褐色輪紋病	<i>Corynespora cassiicola</i>	●	無	○	無	中程度
	テンサイ褐斑病	<i>Cercospora beticola</i>	●	有		無	中程度
	ダイズ紫斑病	<i>Cercospora kikuchii</i>	●	有		無	高い
	トマトすすかび病	<i>Pseudocercospora fuligena</i>	●	有		有	中程度
	ブドウ褐斑病	<i>Pseudocercospora vitis</i>	●	有	△	有	高い
黒斑病等 <i>Alternaria</i> 属 および近縁菌	トマト輪紋病	<i>Alternaria solani</i> ほか	○	無	△	無	中程度
	リンゴ斑点落葉病	<i>Alternaria alternata</i> apple pathotype	●	有	△	有	中程度
	ナシ黒斑病	<i>Alternaria alternata</i> Japanese pear pathotype	△	有	△	有	中程度
	セイヨウナシ黒斑病	<i>Alternaria alternata</i> apple pathotype	●	有	△	有	中程度
	セイヨウナシ褐色斑点病	<i>Stemphyllium vesicarium</i>	○	無	△	有	中程度
	モモ黒斑病	<i>Alternaria</i> sp.	△	有	△	無	中程度
	ジャガイモ夏疫病	<i>Alternaria solani</i> ほか	○	有	○	無	高い
	テンサイ葉枯病	<i>Alternaria</i> spp.	○	無		無	中程度
	リンドウ黒斑病	<i>Alternaria alternata</i>	●				中程度
	アスパラガス斑点病	<i>Stemphyllium vesicarium</i>	●	有	○	有	高い
灰色かび病	カンキツ・野菜類ほか灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i>	●	有	●	有	高い
	バラ・ペチュニア灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i>	●	有	○	無	高い
葉枯病	ユリ葉枯病	<i>Botrytis elliptica</i>	△	無	○	有	中程度
炭疽病	シバ炭疽病*	<i>Colletotrichum graminicola</i> (国内未登録)	●	※日本芝は無		有	高い
	レッドトップ炭疽病	<i>Colletotrichum graminicola</i>	○	有		有	高い
	イチゴ炭疽病	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> , <i>C. acutatum</i>	●	有		無	高い
	リンゴ炭疽病	<i>Colletotrichum aenigma</i>	●	有		混	高い
	ブドウ晩腐病	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i>	●	有	△	有	高い
	ナシ炭疽病	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i>	●	有		混	高い
	ジャガイモ炭疽病	<i>Colletotrichum coccodes</i>	○	無		無	高い
黒星病 <i>Venturia</i> 属	リンゴ黒星病	<i>Venturia inaequalis</i>	●	有	○	有	高い
	ナシ黒星病	<i>Venturia nashicola</i>	△	有	△	有	高い
黒星病 <i>Cladosporium</i> 属	セイヨウナシ黒星病	<i>Venturia pirina</i>	○	有		有	高い
	キュウリ黒星病	<i>Cladosporium cucumerinum</i>	●	混	●	混	中程度
	ウメ黒星病	<i>Cladosporium carpophilum</i>	△	有	△	有	中程度
灰星病 モニリア病	モモ灰星病	<i>Monilinia fructicola</i>	○	有	△	有	中程度
	オウトウ灰星病	<i>Monilinia laxa</i>	○	有	△	有	中程度
その他	イネいもち病	<i>Magnaporthe oryzae</i>	●	有		無	高い
	イネ紋枯病	<i>Monilinia laxa</i>	○	有	○	有	中程度
	コムギ赤かび病	<i>Microdochium nivale</i> ほか	●	有		無	高い
	コムギ葉枯病	<i>Septoria tritici</i>	○	無		無	高い
	コムギ黄斑病	<i>Pyrenophora tritici-repentis</i>	○	無		無	中程度
	コムギふ枯病	<i>Phaeosphaeria nodorum</i>	○	無		無	中程度
	オオムギ網斑病	<i>Pyrenophora teres</i>	○	無		無	中程度
	オオムギ雲形病	<i>Rhynchosporium commune</i>	○	無		無	中程度
	メロンつる枯病	<i>Didymella bryoniae</i>	●	有	○	有	高い
	ナスすすかび病	<i>Mycovellosiella nattrassii</i>	●	有	●	有	高い
	トマト葉かび病	<i>Passalora fulva</i> (= <i>Fulvia fulva</i>)	●	有	●	有	中程度
	アブラナ科菌核病	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i>		有	○	有	中程度
	イチゴ疫病	<i>Phytophthora cactorum</i>	○	無		無	中程度
	チャ輪斑病	<i>Pestalotiopsis longiseta</i>	●	有		無	高い
	キク白さび病	<i>Puccinia hortana</i>	○	有	○	有	中程度
	ダイズさび病	<i>Phakopsora pachyrhizi</i>	○	無	○	有	中程度

●：国内で耐性菌発生事例あり。○：国内未報告だが海外で発生事例あり。△：耐性菌発生事例ないが今後出現の可能性のある病害。

混：単剤での登録農薬が無く混合剤の形でのみ当該系統の薬剤を含むもの。

作物ごとの薬剤耐性菌発生リスク (2018年11月5日現在) [\[目次に戻る\]](#)

日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会

分類	作物	病害名	耐性菌発生リスク	QoI		SDHI	
				耐性菌発生状況	農薬登録	耐性菌発生状況	農薬登録
穀類	イネ	いもち病	高い	●	有		無
		紋枯病	中程度	○	有	○	有
	コムギ	赤かび病	高い	●	有		無
		うどんこ病	高い	●	有		無
		葉枯病	高い	○	無		無
		黄斑病	中程度	○	無		無
オオムギ	ふ枯病	中程度	○	無		無	
	雲形病	中程度	○	無		無	
	うどんこ病	高い	○	有		無	
野菜類	キュウリ	網斑病	中程度	○	無		無
		うどんこ病	高い	○	有		無
		褐斑病	高い	●	有	●	有
		べと病	高い	●	有		無
	メロン	黒星病	中程度	●	混	●	混
		つる枯病	高い	●	有	○	有
	その他ウリ類	うどんこ病	中程度	●	有	○	有
	イチゴ、トマトほか	灰色かび病	中程度	●	有	●	有
	トマト	葉かび病	中程度	●	有	●	有
		すすかび病	中程度	●	有		有
		褐色輪紋病菌	中程度	●	無	○	無
		輪紋病	中程度	○	無	△	無
	ナス	すすかび病	高い	●	有	●	有
		黒枯病	高い	●	混	△	有
	ピーマン	黒枯病	高い	●	有	△	有
	ニンニク	白斑葉枯病	高い	●	混	△	混
	イチゴ	炭疽病	高い	●	有		無
		うどんこ病	高い	●	有	△	有
	アスパラガス	疫病	中程度	○	無		無
斑点病		高い	●	有	○	有	
テンサイ	褐斑病	中程度	●	有		無	
	葉枯病	中程度	○	無		無	
アブラナ科	菌核病	中程度		有	○	有	
果樹類	リンゴ	黒星病	高い	●	有	○	有
		炭疽病	高い	●	有		混
		うどんこ病	高い	○	有		有
		斑点落葉病	中程度	●	有	△	有
	ナシ	黒星病	高い	△	有	△	有
		黒斑病	中程度	△	有	△	有
		炭疽病	高い	●	有		混
	セイヨウナシ	黒斑病	中程度	●	有	△	有
		褐色斑点病	中程度	○	無	△	有
		黒星病	高い	○	有		有
	モモ	灰星病	中程度	○	有	△	有
		黒斑病	中程度	△	有	△	無
	オウトウ	灰星病	中程度	○	有	△	有
	ウメ	黒星病	中程度	△	有	△	有
カンキツほか	灰色かび病	高い	●	有	○	有	
ブドウ	べと病	高い	●	有		無	
	晩腐病	高い	●	有	△	有	
	灰色かび病	高い	△	有	○	有	
	褐斑病	高い	●	有	△	有	
	うどんこ病	高い	○	有	○	有	
その他	茶	輪斑病	高い	●	有		無
	バラ、ペチュニア	灰色かび病	高い	●	有	○	有
	リンドウ	黒斑病	中程度	●	有		無
	ユリ	葉枯病	中程度	△	無	○	有
	ダイズ	紫斑病	高い	●	有		無
		さび病	中程度	○	無	○	有
	ジャガイモ	夏疫病	高い	○	有	○	無
		炭疽病	高い	○	無		無
	キク	白さび病	中程度	○	有	○	有
	シバ	炭疽病	高い	●	※日本芝は無		有
レッドトップ (西洋芝の一種)	炭疽病	高い	○	有		有	

●：国内で耐性菌発生事例あり。 ○：国内未報告だが海外で発生事例あり。

△：耐性菌発生事例ないが今後出現の可能性のある病害。 混：単剤での登録薬剤が無く混合剤の形でのみ当該系統の薬剤を含むもの